

経営協議会学外委員からの指摘事項への対応について(令和7年度対応済み分)

	事項【意見抜粋】	本学の対応	対応室	指摘回	対応状況
1	<p>広島大学情報化戦略の取組について</p> <p>【生成AIの取組を一層重視し、教員のAI教育の強化と学生のAIリテラシーの強化を計画に盛り込んでほしい。】</p> <p>【構成員の生成AIや情報に対するリテラシーをどう強化していくかが大事であり、この点に係る人材育成を広島大学の一つの柱にされてはどうか。】</p>	<p>全構成員(教職員及び学生)にMicrosoft 365 Copilot Chatを提供するとともに、希望者には受益者負担(公費)により、さらに高機能なMicrosoft 365 CopilotやTeams Premiumのライセンスを付与する体制を整えた。併せて、事務職員の一部に試行的なライセンス付与を行い、活用層の拡大を推進している。加えて、令和5年度から実施しているDX人材育成研修では、生成AIに関するカリキュラムの拡充や、カリキュラムを全構成員向けに公開する取組により、最新の情報やリスクについて学習できる機会を提供した。今後も取組を継続する。</p> <p>本学のDXの取組の成果や、研修資料、動画を学内外に公開するための「広島大学DX推進Webサイト」を構築し、公開した。令和8年度は、生成AIなどの情報技術に関する情報交換を行うための「構成員向けITコミュニティ(仮)」の構築を計画している。</p> <p>また、情報セキュリティ推進機構において「広島大学における生成AIの利用等に関するガイドライン」を、情報部において「広島大学DX推進基本計画(令和8～10年度)」を策定中であり、構成員の情報リテラシーの向上を目指している。</p>	財務・総務室	第103回 (07.3.14)	(08.03.26報告)
2	<p>ステークホルダーとのエンゲージメント強化等に向けた広島大学校友会の取組について</p> <p>【大学として取り組むことを決め、アピールしていくことで校友会への入会を働きかけていかれてはどうか。】</p>	<p>広島大学校友会では、ホームカミングデーをはじめ、学生・卒業生・企業等が参加する企画を拡充することで、交流機会の創出を図っている。あわせて、地域別・職域別の同窓会や登録団体との連携を強化するとともに、デジタルプラットフォームを活用した情報発信にも積極的に取り組んでいる。さらに、大学が実施する教育・研究活動や学生支援事業と連携を進め、校友会活動を一層可視化することにより、入会意義の具体化に努めている。</p> <p>また、校友会設立20周年(2027年2月)を契機としたリユニオンを促進する新たな取組にも着手する。具体的には、年代や地域ごとにテーマを絞った小規模イベント(卒後周年同期会や学部同窓会等との共催によるスポーツ観戦企画、キャンパスの特性を活かしたフィールドツアーなど)を主催または開催支援し、ステークホルダーの嗜好に応じた自発的・主体的な参加の機会を増やす。これにより、校友会活動への参加を促進するとともに、ネットワークの強化と大学の総合力向上につなげていく。</p>	基金室	第105回 (07.6.27)	(08.03.26報告)
3	<p>平和学長会議の将来的な方向性について</p> <p>【日本の大学にも参加してもらうことは重要だと思うが、どのようにお考えか。】</p> <p>【海外大学の学長が日本に来た時、国内の大学にどれくらい声をかけるかという規模感は大事だと思う。】</p> <p>【資金の問題に関して、ふるさと納税の活用を考えてみてはどうか。】</p>	<p>第4回平和学長会議では、福島県立医科大学及び国連大学に参加いただいたところであり、今後さらに国内大学の招待も拡大させていく予定である。</p> <p>平和のためのファンディングとして、世界の次世代リーダーを広島に招へいする事業に充てるため、今年度、平和チャリティコンサートを開催したところである。今後もこのような活動や企業・個人からの寄附なども含め、平和のための資金調達活動の試みを行っていく予定である。</p>	国際室	第107回 (07.11.12)	(08.03.26報告)